

第15回
地域権問題全国研究集会場



お早うございます。

昨日は地域人権問題全国研究集会のため姫路に。主催は全国人権連。「社会問題としての部落差別は解決の段階にある」として全解連から発展した団体で、人権問題で活発な研究や活動を展開しています。今回は第15回の研修集会で500人超が全国から集まりました。私からは連帯の挨拶。

八鹿高校事件から今年で45年。教育現場で白昼堂々集団リンチが行われ多数の職員が瀕死の重傷を負いました。それらの暴力に果敢に立ち向かってきたのが人権連の方々でした。メディアは赤旗以外は一切報道せずという異常事態。このような事を二度と繰り返してはなりません。

国会では村上弘共産党衆院議員が緊迫の国会論戦を行っています。

<https://jinken-kyoiku.org/archives/236>

わずか45年前にこのような事件があったとは本当に信じ難い話です。

さてこの間、関西電力の汚職に関連して、「同和」が注目されているようです。

渦中の森山福井県高浜町元助役自身が1970年当

渦中の森山福井県高浜町元助役自身が1970年当時、県で部落解放同盟県連書記長を2年間務めたことなどにスポットがあてられ、「だから関電幹部は森山氏からの金品は、怖かったので断れなかった」というストーリーを、安倍応援団とされる人などがネットで発信しているようです。

しかしそれは、今回の汚職の核心を完全に見誤るものです。今回の汚職は、メーカー、ゼネコン、電力会社、自治体、政治家など、「原発利益共同体」と言われる面々が、原発利権に群がる構図の中で起こったものであって、森山氏が解同関係者であったことが問題の核心ではありません。

森山氏は、「確認・糾弾」路線で自治体職員や教員を委縮させてきた当時の解放同盟の存在を背景に、自らの影響力を高めようとしたのででしょう。むしろそういう森山氏の存在を利用したのが関電はじめとする原発利益共同体なのです。関電は被害者では決してないのです。

原発利権の真相を徹底的に明らかにしていかなければなりません。

<https://jinken-kyoiku.org/archives/236>